

# 原発 ゼロ にむかって

2011年11月2日 No.1

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp



3月11日の福島第一原発事故以前の、福島の美しい自然と大地、県民のあたりまえの生活を取り戻すという、切実な願いについて、国と東京電力に責任を果たさせる、そして大きな被害を作り出した「原発」をなくす運動、全国でとりくまれている運動が1万人集会に結実しました。

## 福島集会、1万人を超える参加。

東京電力福島第1原発事故を受け、国や東電に原発からの撤退を求める『なくせ！原発 安心して住み続けられる福島を！10・30大集会 インふくしま』が30日、福島市の南西部、吾妻小富士の麓にある、「四季の里」で開かれました。当日測定した環境放射線値が0.56マイクロシーベルト/hを示した会場は「フクシマで生きていたい」「うつくしま、ふくしまを取り戻せ」などのゼッケン、プラカードを身につけた1万人を超える参加者の熱気に包まれました。10台のバスをチャーターした東京民医連からは、400人以上の職員、共同組織が参加しました。全国の民医連からの参加は事前掌握の段階でバス30台、参加予定者1,400人にのぼり、1万人集会成功に大きな役割を發揮しました。会場の交流テントには復興なべ、福島産米で作った甘酒、福島産の梨、柿や「御支援ありがとうございます」と貼り出された福島医療生協のテントなど、多数並びました。集会では「なまはげ」や「ねぶた」のパフォーマンスなどの「元気ステージ」に続き、「ふくしま大集会」として庄條徳-JA福島中央会長や、被災自治体代表として馬場有浪江町長、菅野典雄飯舘村長があいさつし、佐藤栄佐久前知事は「福島



「そとであそびたいです。うみでおよぎたいです。」とメッセージ

島がこんなことになるなんて悪夢を見ているようだ。双葉郡の住民を棄民にはしてはいけない」と除染の徹底を訴えました。国会議員は、日本共産党の志位和夫委員長、笠井亮衆院議員、地元選出の民主党の石原洋三郎衆院議員、金子恵美参院議員が登場しました。幅広い人たちのあいさつの後、原発事故の完全賠償や、原発の廃炉、放射能から子どもたちを守ることを求め、『目を閉じて思い浮かべてください。「ふくしま」と名がただだけで、避けられてしまった悔しさを。さよならも言えず、友だちと別れた子どもたちの思いを。子どもの寝顔に「あなたを私は守れるのだろうか」と語りかける親の葛藤を」と福島の実情を訴えた集会アピールを採択、集会後、「四季の里」周辺をパレードして「なくせ原発」をアピールしました。